

足立区基本計画審議会
第3回くらし・まち分科会 会議録

令和6年2月14日

足立区基本計画審議会 会議概要

会 議 名	足立区基本計画審議会 第3回くらし・まち分科会		
事 務 局	政策経営部 基本計画担当課		
開 催 年 月 日	令和6年2月14日（水）		
開 催 時 間	午後2時30分 ～ 午後4時10分		
開 催 場 所	足立区役所 南館8階 特別会議室		
出 席 者	【委員】		
	宮本 みち子 分科会長	長谷川 勝美 副分科会長	加藤 和明 副分科会長
	遠藤 章 委員	山下 俊樹 委員	渡部 郁子 委員
	小柳 真太 委員	岡安 たかし 委員	渡辺 ひであき 委員
	【事務局】		
	政策経営部長 勝田 実	基本計画担当課長 伊東 貴志	基本計画担当係長 山崎 悠生
	政策経営担当係長 芳賀 優美子	政策経営担当係長 鈴木 力	政策経営担当係長 乾 洋平
	政策経営担当係長 土井 渉	政策経営担当係長 古田 信幸	政策経営担当係長 池田 広幸
	株式会社 地域計画連合 相羽	株式会社 地域計画連合 青柳	株式会社 地域計画連合 柳坪
	福祉管理課長 近藤 博昭	都市建設課長 室橋 延昭	
欠 席 者	國井 幹雄 委員		
会 議 次 第	1 第2回 全体会での意見について 2 足立区基本計画の各施策に関する意見交換 3 次期計画で高めていくテーマ（案）に関する意見交換 4 事務連絡		

資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【資料１】 第２回全体会での主な意見一覧 ・ 【資料２】 これまでの足立区の実施に加え、次期計画で高めていくテーマ（案） ・ 【資料３】 検討シート１（基本構想の視点に基づく各施策） ・ 【資料４】 検討シート２（テーマを取り入れた各分野の目標（実現した姿）について） ・ 【資料５】 第４回分科会開催通知
そ の 他	傍聴人：有 <input checked="" type="radio"/> 無 (人) その他参加者：有 <input checked="" type="radio"/> 無 ()

様式第2号（第3条関係）

（審議経過）

（伊東基本計画担当課長）

それでは定刻になりましたので、ただいまより足立区基本計画審議会 第3回くらし・まち分科会を開会いたします。本日はお忙しいところご出席を賜り誠にありがとうございます。最初に連絡事項がございます。本分科会は条例で公開を原則としております。会議記録はホームページなどでも公開をさせていただいております。また、会議記録を正確に記録するために録音をさせていただきます。また、広報やホームページ等に掲載するため、写真撮影をさせていただくこともございますので、その点もご了解いただきますようお願いいたします。

次に、配付資料の確認を行います。資料1から5までございます。資料1が第2回全体会での主な意見一覧。資料2がこれまでの足立区の取り組みに加え、次期計画で高めていくテーマ案。資料3は3-1から3-3までありますが検討シートでございます。資料4が検討シートの2。テーマを取り入れた各分野の目標について。そして資料の5が次回分科会の開催通知です。その他に本日席上に置かせていただいた資料が4点ございます。席次表、事前質問への回答をまとめた資料、そして意見提出用紙と審議会委員の名簿です。また、資料についてはタブレットでご覧いただくこともできますので、ご希望の場合は事務局職員までお申し付けください。

続いて、席上のマイクの使い方のご案内です。発言をいただく際は、お手数ですがお手元のマイクのボタンを押していただき、マイクのランプが点灯しましたら最初にお名前をおっしゃっていただきますようお願いいたします。会議録作成のために必要になります。発言が終わりましたら、再度ボタンを押していただきますようお願い申し上げます。

では、審議に先立ちまして、審議会委員の追加についてご報告をさせていただきます。本日席上に置かせていただいた委員名簿を合わせてご覧ください。1月16日の第2回全体会において、若年層の委員を追加することについてご意見をいただきました。その直後より事務局で

は公募の段取りに入りまして、6名の方にお申し込みをいただきました。その中で公募面接を行った結果、公募委員の一番下、森元隼人さんにご参画をいただくことになりました。現在、森元委員は大学生で、若年者支援や教育などに関して当事者としての意見をいただくことができるということで、昨日の第3回ひと・行財政分科会からご参画をいただいております。では、ここからの進行は宮本会長にお願いします。

1 第2回全体会での意見について

（宮本分科会長）

早速、本日の分科会を開始したいと思います。次第に沿って進めさせていただきます。第2回全体会での意見について、事務局より説明をお願いします。

（伊東基本計画担当課長）

それでは資料1と2をご覧ください。第2回全体会での主な意見を紹介します。これまでの足立区の取組みに加えて、次期計画で高めていくテーマとして、ウェルビーイングを高めるということで、人々のやりたいことができるとか、自己実現を後押ししていくといったことを計画の中に取り入れていきたいということをお話させていただきました。それに対しての意見が資料1に記載がございます。右側の2からご説明します。ただいま申し上げたテーマに対して、やりたいことができる、つながりといったところについては、総じて同意をいただいたと認識しています。地域で何かに関わり、足立区にふるさと意識や思い出がある方は定住している傾向があるのではないかと感じているというご意見。また、転入してきた方々の立場から、足立区になぜ定住することになったかといえ、それは足立区でやりたいことがたくさんできるということがあったからだというご意見。あとは、若い方や子どもたちがやりたいことを応援するという中で、まちが一体になれるところを目指していくのが良いポイントではないかといったご意見などをいただきました。

また、やりたいことを実現していくことの具体化に関するご意見として、このテーマは良いと思うが、具体化においては一工夫が必要なの

ではないかというご意見。あとは区内でやっていきたいことの自分の関心を高めるためには、区内でどのような活動が行われているかということのカタログ化が必要ではないかといったご意見。あとはやりたいことを支援することもある必要なのだけれども、同時にやりたいことをサポートしていくといった施策もある必要なのではないかといったご意見。また、若者・子どもの比率が低いので、多数を占める中高年層へのターゲットも考えていく必要があるというご意見。また、その他の意見として、主にPR・情報発信ということで、行政のPRではなかなか情報のリアル感がないので、足立区を上手にPRできる若い方の活用もある必要ではないかというご意見。あとは特色のない無色透明な区になってほしくない、チャレンジングな取組を今後も続けていく足立区でいてほしいといったご意見などをいただいています。

左側は各分科会の討議内容における追加意見です。主に子ども・若者に関する意見と、全庁的な横断的なご意見をそれぞれいただきましたのでご紹介します。子ども・若者に関する意見については、若者の活力に目が行きがちだが、そういった若者の中でも生活の安心感や就業の安心感を高めることにも目を向ける必要ではないかといったご意見。中高生の不登校、若者の孤立・孤独というところが増えてきているので、今回の基本計画の中では、そのあたりも重点的に今後取り組んでいく必要があるのではないかとといったご意見。また、子育て世代に重点的に資源が投入されることで、子育て世代以外の人たちが資源を搾取されていると感じられて、子育て世代が心理的に暮らしぶらくなっていくというような状況が発生することもあると考えられるので、バランスを取った運営をしてもらいたいというご意見。それに対しては、これからの国を支えていくのは子どもたちなので、そういった子どもを育てている方が肩身の狭い思いをする必要はないという意見もありました。

その下の横断的なご意見になりますが、一番上の人口減少が避けられないところを念頭に置いて、サービスを増やしていく、追加することだけではなくて、廃止・整理をしていく

ことも今後の視点の中では必要ではないかという話がありました。一番下のご意見ですが、公共施設には複合的な要因が大きく関連しているので、区民ニーズを捉えた上で、公共施設の長寿命化・複合化・スマートシティ化も検討していくことが必要ではないかというご意見もございました。上から二つ目。サービスをやめていくことも必要なのだけれども、今良いと思われるものは何とか工夫をして残していくということも必要ではないかという話。IT化の流れが来ているので、行政もそうしたITの活用を更に進めていく必要ではないかというご意見。また、みんなで活動する場の充実や、活動をするための費用の話はセットで議論をする必要があるのではないかとのご意見をいただいています。

（宮本分科会長）

ありがとうございます。それではただいまご説明をいただいた資料の1ですね。前回のそれぞれの委員の皆様からのご意見が名前が入ってリストになっています。まず、これを見ていただいて、発言の意図と違っているということがありましたら、まずご指摘をいただければと思いますがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、この資料1の意見も踏まえながら、本日の検討に進んでいきたいと思います。

2 足立区基本計画の各施策に関する意見交換

（宮本分科会長）

次第の2。基本計画の各施策に関する意見交換にまいりたいと思います。意見交換にあたり、事務局で検討シートをご用意いただいています。まずは事務局でこの検討シートについて説明をお願いします。

（伊東基本計画担当課長）

資料3-1から3-3をご覧ください。こちらは現行の基本計画の施策に対して、今後更に磨いていくべきですとか、足りないところはないかということに従前からご議論いただいています。その意見をまとめたものでございます。右から2番目の水色の部分ですね。これが出た意見の抜粋になりますが、記載しています。た

だ、意見が入っていないところもありますので、こちらで追加すべき意見があればご発言していただきたいと思います。そして、分科会としてどの意見を採用していくのか。全て採用するのも含めて、分科会の総意としてどこまでの意見を採り上げていくのかもご議論をいただければと思います。

(宮本分科会長)

それでは、検討シート1、資料3-1、3-2ですが、ここで「くらし」についてございますが、この件についていろいろご意見をいただければと思います。大体20分ぐらいでこの部分の検討を終えて、次に行きたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(加藤副分科会長)

資料3-2ですが、健康寿命の延伸を実現するというので、「住んでいると自ずと健康になる仕組みの構築」についてです。そこにスポーツによる健康づくりも入れてはどうかと思います。スポーツによる健康の維持増進。パークで筋トレとか、あるいは地区センター、また地域体育館で健康づくりのいろいろなストレッチ等をやっていますので、そういったことも入れていただければと思います。

(岡安委員)

今、加藤委員がおっしゃったことはもっともな話ですが、既に足立区ではしっかりと施策に対しての具体的な行動目標として入っているし、予算化もされているし、来年度予算にも入っています。施策の目標があまりにも少なすぎて、ポイントしか書かれていないような気がします。加藤委員がおっしゃったスポーツのことは、障がい者スポーツも含めて足立区として取り組む目標は既にあるわけですから、これをどう考えていったらいいのか。施策の目標に書かれていないことの中で、実はもう足立区ではいっぱいありますよということがあります。そこを議論すると、それは既に足立区はこういうことをやっている。やろうとしていると。あるいは、本当に足立区がまだ力を入れていないところがこの文言から僕らが読み取れるのかというと、議員は多少は触れる場も多いのである程度ヒント的には出てくるのでしょけれど、なかなか

か委員の皆さんから、ここに書いていないもので足立区がまだ力を入れなきゃいけないものって出てきづらいと思います。今、ここでどんなことを求めているのかが分かりづらいのです。

(伊東基本計画担当課長)

確かにスポーツの話で言えば、岡安委員がおっしゃる通り、区でもパークで筋トレ等をやって、スポーツからの健康づくりというところは進めているところです。ただ文面上、「スポーツで健康に」というのは、現行の基本計画の健康づくりのところに強くうたわれているわけではないので、もう少し強くその切り口を出した方がいいのではないかということであれば、そういったご意見をいただきたいと思っているのが一つです。

あとは今、空欄になっているところについては、ご意見が今まであまり多くなかった部分ですので、委員の皆様がお感じになっていることだけでも構わないので、このあたりは抜けているのかどうなのかというところをご発言をいただきたい。やっているものについてはやっているとお答えしたいと思います。私たちが知り得ない、思い付かない視点があれば自由にご発言をいただきたいというのが今日の趣旨です。

(岡安委員)

そういう意味で、今、加藤委員がおっしゃったスポーツというのは私も大賛成で、そこにやはり障がい者スポーツ、そしてもう一つは今これも足立区ではやっていますが、健康ポイント事業。やっているけれども、引き続き重点を置いてやっていった方がいいと思います。あとは公園に健康遊具ということでは、まだまだこれからもっと配置していく必要があると思っていますので、そういった視点を入れていただけると、スポーツと相まって複合的に良い結果を生むのではないかと思いますので、よろしくお願いいたします。

(渡辺委員)

関連で、今、岡安委員、加藤委員がおっしゃった通りで、スポーツであったり、体を動かしてということを入れないと、自ずと住んでいて健康になるということにはつながりにくいと思います。例えば、いろいろな施策が既にあると

岡安委員がおっしゃいましたが、パークで筋トレであったり、付随してフレイル予防をする。そこで足立区がやっている事業は、そこにぶら下って記述することが必要かはこれからの議論だとは思いますが。体を動かす、スポーツをすることはぜひ入れていただきたいと思います。

(加藤副分科会長)

足立区の人口は69万ですか。ここに外国の方が5.5%。外国人の方に対する対策があまり出ていないような感じがします。特に中国・韓国、それからフィリピン・ベトナムですか。そういった東南アジアの方が多いのですが、そういった方との多文化共生、これも必要だと思います。

(宮本分科会長)

まず、外国人の方に関しては、「ひと・行財政」の方に入るとのことですが、こちらの「くらし・まち」に関してもいろいろなものが入るだろうということで、そこは意識するということでもよろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。健康のことがでしたが、山下委員から何かそれに関連した形で伺えますか。

(山下俊樹委員)

子どもたちを見ていると、スマホとかタブレットとか、小学生の低学年から買い与えられて使っている。見ていると、良からぬコンテンツも平気でセキュリティを突破して見て大騒ぎをしています。そういうことを考えると、健康に関していえば、子どもたちに対する教育です。健康教育とか、特に最近問題になっている性感染症、STDの問題であるとか、そういったところには今まで以上に若年者を対象にして上手に教育をしていくという視点があってもいいと思います。

あとは持続可能な医療保険制度とか、ICTを利用したということですが、これはもう一つの分科会で話が出ているのかもしれませんが、この秋から完全移行するマイナンバーカード保険証。そこに多くの人たちがスムーズに導入できるようにする。これは使い方によっては非常に有効だと考えていますので、賛否両論あるところですが、私としては誰でも使える保険証ということも考えてもいいのではないかなと

思います。

(岡安委員)

健康教育は私も大賛成です。その中でオーバードーズが小学生にも増えているということを教育委員会からも聞いていまして。そこも少し触れないといけないのかなと思っています。これは右肩下がりであればいいのですが、増えている現状がある以上、何らかのやはり区として取組みをやらなければいけないのだろうなと思います。健康教育の中でそういうことをしっかりとお願いします。

(渡部委員)

資料3-1の下の部分で、「ごみの減量と資源化の推進」で、家庭のCO2排出量が多い、区民一人ひとりが環境にやさしいまちを目指すというご意見が出たと思うのですが、家庭のCO2排出量が多いというデータが私には見つけれませんでした。これがどこと比べてどのように多いのか。家庭ごみだけ見ると、足立区では平成から令和の間で半分ぐらいに減っているというデータもある。家庭ごみは減っているはずなので、CO2排出量を家庭でもっと削減しなければいけないという、このデータはどこから出てきたのかなというのが気になりました。ごみではなくて、CO2排出量が別の理由なのか、何を私たちは減らさなければいけないのかというところが明確になると、もう少し施策としても立てやすいのかなと思います。こちらがもしデータなどがあればぜひ教えていただけたらと思っています。

(山崎基本計画担当係長)

CO2排出量ですが、オール東京62市区町村共同事業 みどり東京・温暖化防止プロジェクトで二酸化炭素排出量を公開しておりまして、特別区の比較ができるようになっています。この資料からご提示しています。なお、第1回全体会で配付をした基本計画策定のための検討素材の45ページに記載があります。

(伊東基本計画担当課長)

その資料だと足立区は二酸化炭素排出量が23区で7番目に多いということになっています。その中の3分の1が民生家庭部門から出ています。

(渡部委員)

23区内で7番目に多いということですか。

(伊東基本計画担当課長)

そうです。人口も多いことももちろんあると思いますが、7番目になっています。こちらはオール東京62市区町村共同事業 みどり東京・温暖化防止プロジェクトというのがあります。そこからの資料になります。

(渡部委員)

ありがとうございます。個人的な意見としては、足立区内はごみの処理場もたくさんありますし、処理規模も他区に比べると圧倒的に多いと認識しています。ごみ処理ができる区だからこそCO₂が多いのかなと思っていました。一人ひとりの量が多いのであれば減らすべきところではあると思いつつ、今、他区ではプラスチックを燃えないごみにならないように、もっと細かく分けていこうという動きも始まっているところで、それをやるべきという意見があることはもちろんですが、それを分け始めるとものすごく家庭では手間が増えることもある。足立区のごみ処理場は機能が高いから、プラスチックが燃やせるから燃えるごみになっているとも聞いたことがあるので、そのあたりも含めて、ごみの分別は足立区ではやるべきなのか、やらなくても変わらないのかみたいなところがはっきりしてくると、何をでは減らせばいいのかみたいなことが、もうちょっと明確になると思いました。

(宮本分科会長)

おっしゃる通りです。私の住んでいる自治体も、ごみ処理場を新設してプラスチックも全部燃えるごみになっています。計算をして、燃やしてもCO₂の量については問題はないという結論でそうになりました。個人的には、ごみが多くなっている一つは宅配便の段ボールがどんどん増えている感覚があります。そのこととCO₂が関係しているのかどうかがよく分からないですね。

(伊東基本計画担当課長)

紙の量とCO₂のところですが、明確にどれぐらいの割合で寄与しているかは資料はございません。ごみの中で本当は資源になる紙、雑紙

というものが、今の時点では燃やせるごみに含まれている状況がありますので、そのあたりの分別は区民の皆さんにもしっかりと取り組んでいただくが必要になってきます。加えて、来年度からモデルではありますが、一部地域においてプラスチックの分別回収も始めるということになっていますので、その事例を踏まえて区としてもいずれプラスチックの回収は、燃やせるごみとは分けてやっていく方向になっていくと思います。

(宮本分科会長)

他にいかがでしょうか。資料3-2ではいかがでしょうか。

(岡安委員)

反社会的団体について。足立区は、反社会的団体を排除するということで、地域の方が区と一体となって運動を起こして、観察処分もまた更新されたところですが、中にいらっしゃる方々が微増しているらしいです。「ヨガ教室に来ませんか」「こんな面白いことをやっていますよ」と声かけをする。若者が知らない間にそっちに入っていくってしまうということで、今、微増しているということです。信教の自由もありますので、どこまでそういうものを止められるのか分かりません。ただ、やはり実態を隠しながら、そうやって進めるのはいかがなものかという声が、地域からも出ているということで、そこも触れた方がいいのかもしれない。誤魔化しで広めていくような動きは区としても断固阻止するというのも、基本計画の中に入れてもいいのかなと思いました。

(宮本分科会長)

こちらについてはよろしいでしょうか。特に反対意見はないかと思いますが、他にはいかがでしょうか。もしかしたら、後でまた気付かれるかと思いますが、その時に出していただくということで、「まち」の方に進みたいと思います。資料3-3ですがこちらについてはいかがでしょうか。

(渡辺委員)

震災に備えた区民意識の向上と地域防災力の強化という施策の中で加えていただきたいと思います。議会の委員会

の中で発言をしているのですが、避難所の訓練についてコロナが終わったので、その訓練を促進しようという動きになっているのはとても良いことですが、そもそも足立区の避難所に入る方は、69万人区民の中で、15万人のみです。それ以外の方については、水害だと広域避難とか垂直避難をするために何らかの約束をしようとかそういうことがあります。震災の時にはそれだけの数が入れないことを考えれば、やはり自ら身を守るための備蓄をしっかりとすることについては、避難所に入れない方がたくさんいるので、家庭内備蓄についてケアしましょうということは入れていただきたいと思います。

（宮本分科会長）

別の委員会で同じことを発言したのですが、高齢者の一人暮らしは、特に女性が圧倒的に多いので、備蓄に関しては感覚が非常に高いと思います。現役の年齢の一人暮らしの方は、これはもう調査ではっきりしているのですが、備蓄の意識が非常に低い。水ぐらいは多少多めに備えている程度の感覚が多い。一人暮らしの現役年齢層が多くなっているところは、災害になった時に自分のところに備えていない人が大量に出るだろう、これは確実に出るだろうという感覚があります。その点で日頃から一人暮らしの方に自らの備蓄をしてくださいということは、相当言わなければいけないだろうなと思います。

この場所かどうか分かりませんが、便利で快適な道路・交通網を作るところに、少し外れるとは思いますが、今、都市計画でパブリックスペースを有効に作るというのがかなり進んでいますね。道路もただ車と人が動くところではなくて、道路の横側にテーブルと椅子を置くとかです。それから公園はもちろんですが、河川の横のところが集いの場になります。それから大きなビルの前の広場にテーブルや椅子を置いて、誰もがそこで憩うことができます。住みやすいまちというのは、パブリックスペースがどのくらい豊かかどうかでかなり決まってくるようなところがあります。特にあまり人とお付き合いのない方にとっては、例えば土日の休みの時に、自分の家の中にいるのか、道路を

歩いているしかないか、お金を使って商業施設で楽しむかというような、そんなことではない空間を作る必要があるのではないかとということで、ちょっとパブリックスペースの効果を認識したまちづくりを入れていただくといいのかなという感じがします。

（岡安委員）

今の会長の話を聞いて、国立市とか、特に多摩の方のパブリックスペースが充実した市の景観を思い浮かべて、確かに足立区もそうなるといいなと思いました。一方、足立は本当に細街路が多くて、どこまでそれができるかなとも思います。やらなければいけないことと、現実のギャップというのを感じました。でも、やはりそれはしっかり作っていく必要があるのだろうなど。特に水辺の空間などはまだまだ手つかずのところがあるので、国や東京都とも連携しなければいけないと思うのですが、しっかりと整備すれば、もっと憩いの空間ができるのかなと思いました。

それと前に触れたのですが、道路下の空洞調査。これは随時やってもらっていますが、まだまだ幹線だけですので、どんどんもっと区道とか、次の段階に移ってしっかりとやることも基本計画でうたってほしいと思います。少なからず空洞があるわけです。見つければ補修をしているわけですが、安心・安全な道路の構築のためにも、ぜひ空洞調査をしっかりとやり、また補修も進めていただきたいと思います。

（加藤副分科会長）

パブリックスペースについてはやっていただきたいんですよ。足立の地域で花畑川の整備計画をやっているんです。当初4期に分けてやる予定で、5年掛けて1期。4期に分けてやるのですが、そこは両側を遊歩道にして公園にすると。ですから憩いの場になる。また、交流の場になるというのでやっているのですが、予算が50億だったのが100億掛かってしまったりして。だから1区間だけでそれぐらい掛かりますから。あと4工区やるとなったら相当な額が掛かります。本当にやっていただきたいんですが。足立区は河川が多いので、予算が伴わない部分があるのではないのでしょうか。

だからそれをどのようにやっていくのかを具体的に書き込むのは区民に希望を与えることになる。「あ、これをやってくれるんだ」「何年までにできるんだ」となる。この点は調整ですね。

あとは道路について。都市計画道路は遅れています。ですから、本来ならば何年から何年までに計画しますということが書いてあるのでしょうか、書いていないのではないのでしょうかね。

（室橋都市建設課長）

加藤委員がおっしゃる通り、都市計画道路、今は第4次基本計画がありまして、今年度までに終わらせなければいけないという優先整備路線があります。現実には予算とかいろいろな事業の兼ね合いもあって、その計画内では収まっていないものも多数路線としてございます。今後、今東京都では次に第5次を作るのかどうかも含めて、今検証をしています。もう少しお時間が実際には掛かると思っています。また花畑川の整備については、委員がおっしゃる通り、4工区に分けて、第1工区で技術的なものが伴わないということで予算が倍増したということもございます。その辺について、今地域の皆さんのご意見を聞きながら、次の2期工区に向かってどう整備していくのかを考えています。よりお金の掛からない手法でいかに早くできるかというところは検討しているところです。

（山下俊樹委員）

文京区では老朽化した空き家を区が借り上げる形で取り壊して、単なる空き地にして、10年、20年ぐらい借りる。権利関係の問題があって、なかなか手放してくれないケースも多いので、とりあえず防災とか防犯の意味も含めて、取り壊させてもらって空き地をしているということがポツポツあると聞いています。道路整備とか区画整備となると時間もお金もすごく掛かりますので、そういう細かいところをやっていくだけで、火事や震災への対策と、あるいは防犯とか子どもの不良化も防げる。それほどお金を掛けずにできるのではないのでいいアイディアだなとそれを知った時に思いました。そういうことは足立区では検討したことはないの

でしょうか。

（渡部委員）

先ほど先生がおっしゃったパブリックスペースのお話を聞いた時に、足立区内には公園がとて多いけれども、公園の禁止事項が多いことを思い出しました。パブリックスペースという意味では、公園はとても重要な場所ではあるのですが、ただ、今はすごく使いづらいなと子育て世代としては思っています。ボール遊びができない。走り回ったりするといろいろ言われたりする。大きな声を出すなとも言われます。とにかく全ての公園でなくてもいいので、それこそ地域の特性を生かしたまちづくりというところとか、緑のある空間をというところで、もっと自由に遊べるような空間ができればいいと思うことがよくあります。いろいろな公園がたくさんあって、近くに行けばいろいろできると思うのですが、ボール遊びができないというのは、小学生の子どもにとってはものすごく残念です。スケボーができる場所も少ないです。あとはバスケとかも、バスケットのゴールが付いている公園もたまにあるのですが、全部中学生以上のバスケットゴールで、ミニバスケ用は一つもないです。練習する場所もなければ、ボール遊びができる公園がそもそも少ない。ではどこに行って練習をしたらいいの、という親たちの声をたくさん聞きます。いろいろな場所でいろいろなことができる。ここではこれができるよという公園の特色が出てくると、もっと使いやすく面白くなるなと思っています。一律ボール禁止ではなく、ここでは花火をやってもいいとか、そういう自由化が進むといいなと思いました。

（宮本分科会長）

今までのルールを相当いじらないといけないかもしれない。私は千葉市に住んでいますが、せっかくの海があるのに、横浜みたいな楽しいところが全然なくて、夜になると真っ暗になってしまう。それは、公園法で駄目という説明だったのですが、その法律を変えました。その結果、海辺にいろいろなものができ始めています。横浜には敵わないけれども、でも海としては同じなものと、そんな議論がされているので

す。ボール遊びができない公園ばかり作って、小学生の体力が落ちていると言ってしまうようなそういう実態がありますよね。私の大学の時の教え子が、千葉市の土木建築の部署におり、市長の方針でまちをパブリックスペースを豊かにしようという号令で頑張っています。彼はほとんど役所にいないで、一日中あちこち出歩いて、ちょっとした空き地があると、ああ、ここにちょっとしたフリーマーケットが作れるなとか、ここの道路だと商店の方たちがOKしてくれればテーブルが出せるなとか検討している。そういう形で、段々と良くなってきており、時々テレビで報道されて、見たよって言うで大喜びをしています。膨大な予算が掛からないところからやれることがある気がします。

(岡安委員)

都市型農業について、足立区も農園は少なくなってきたのはいるものの、まだあります。しかしながら、世代交代の中で農地を売ってマンションになるというところも増えてきています。何年か経つと区が買い取る仕組みができていると思います。区がもうちょっと積極的にかかわりながら、都市農をしっかりと保全していく。それがこの緑というのにも寄与していきます。基本計画の中に都市農ってなかなか今までは入ってこなかったと思うので、こちらについても足立区がしっかりと守っていく姿勢を示していただきたいと思います。

(宮本分科会長)

都市の農園と同時に、都市の市民のための農園もものすごく関心があって、今後ますます高まっていくと思います。23区で区民に農地を提供できる区は限られていると思うので、その意味では足立区は非常に恵まれたところだという感じがします。

(小柳委員)

既に取り上げられてはいますが、デジタルシフトの部分です。デジタル技術者と勉強会とか、新規事業者とのマッチングがありますが、その他に施策の目標のところに、ネットワーク化や伴走支援を通じた区内産業の魅力を高める、創業者の集積というのが結構あります。今

は結構いい時代になっていて、様々なデジタル関係の起業が簡単になっています。やろうと思えば結構ちょっとした勉強で、サービスを立ち上げて、ビジネスを作って大きくすることが簡単になってきている中で、それを知らない人たちが多くなると、そういうものを知らしめるというか、そういう機会をたくさん作った方がいいと思っています。デジタルの世界、インターネットの世界って別にどこに住んでいるから有利とかってあまりない。足立区に住んでいながら、ビジネスを作るという人、特に若い人が良いのかもしれませんが、そういう人たちの支援をできるといいなと思いました。

(宮本分科会長)

今のご指摘もとても大事なことだと思います。ますます主な仕事以外の副業で収入を増やしたり、生きがいのためにもそれをやりたいというニーズは高まってきていますが、それに対応した情報提供とか場とか、そういうものが求められていますよね。

(渡辺委員)

渡部委員と会長のお話を伺っていて思ったのですが、条例がものすごく邪魔をする場合があるのかなって改めて思いました。前向きな条例と、区内のルールとしての条例と二つあると思います。特に公園の使い方となると、公園法によって照度を下げなければいけないとか、地域の人たちの意見があったからボールが使えなくなったとか。その意味では、その地域、地域の公園、また面積によって、用途は考え直してもいいのではないかな。それを考えるのは、地域の皆さんに任せてもいいのかなぐらいの気持ちになったので、ちょっと大きな話で言えば条例が足枷にならないような基本計画。あとは地域で使いやすい公園。パブリックスペースとしての公園については、条例の変更も考えるべきだと思います。

(宮本分科会長)

ぜひそこは書き込んでいただきたい。

(小柳委員)

デジタル関係の起業する人を増やしてほしいという部分で、具体的にはもう少し足立区の支援で起業に至った人がどれぐらい増えたのかと

いうのをちゃんとK P Iにして取り組むぐらいやってほしいなと思います。

(宮本分科会長)

足立区の大学で学んだ人が、やがては出ていってしまうだろうと言い切ってしまうと残念です。その中のどれぐらいかの割合が、足立区の若い人の起業支援のそれを使って足立区に定着してもらえたとか。そうなるといいですね。今のところまでで区の方から補足説明等いただけますか。

(勝田政策経営部長)

空き家対策について、文京区は解体の補助金を200万円出して、土地の無償使用契約を締結して、10年ほど公の用途に使うような事業をしていると思います。足立区に関しても、老朽家屋に関しては解体の助成等を行ってはいるのですが、再建のためのお金が掛かる、更地化すると固定資産税が上がるということで、なかなか解体に結び付いていない状況がございます。ただ、事業としては進めておりますし。空き家に関しても北千住に限りますが、空き家の利活用ということで、民間を入れて調査をしまして、別の用途で使えないかということで、地権者と交渉して活用した事例はあります。ただ、空き家になっているところというのは、いろいろと法的なトラブル等あって、なかなかお一人に話をしても解決しないということで、なかなか活用に結び付かないという現実があります。

あと公園に関しても、用途についてということで、区でもパークイノベーション事業を行っています。まだ浸透をしていないのと整備が進んでいないところがあるのですが、この公園はボール遊びができる公園、この公園は遊具は何も設置しないで、広く空きスペースで使える公園とか。エリアごとに特色のある公園を少しずつ整備をして、この公園ではボール遊びができるとか、特色を持った公園整備についてはエリアごとに地域の方々の意見を聞きながら整備を進めています。

(室橋都市建設課長)

先ほどの公園の件ですが、パークイノベーションという形で、平成25年から区の方でい

いろと取組みをさせていただいています。渡部委員のご発言にあったボールで遊べる公園については、ある程度、今、区の方でボール遊びコーナーというエリア分けをして、ボール遊びをやってもいいという公園を整備し、または指定をしています。特に周りの人に迷惑にならないような、柵で囲まれたような公園です。あとは、そういう公園がまだないエリアでは、順次整備をしている最中です。今後、もう少しが増えていくのかなというところです。

(渡部委員)

ありがとうございます。今のお話を聞いて、この先楽しみだなと思いました。実はパークイノベーション課とも連携をさせていただいて、私、パークエンジェルの会というNPOの活動をやっています。公園遊びでいろいろなお願いをして、各いろいろな機関に書類を出した上で、ボール遊びとか泥遊びとかたき火遊びとかをしています。ただ、火遊びは本当にできるところが少ない。火を見たことがない子どもたちがたくさんいる中で、たき火をしたいと思うけど、なかなかすることができない。あとは掘れない。泥遊びをしたいんですけど、公園を掘っては駄目という決まりがある。今、泥遊びができる乳幼児のお子さんが本当に少ないです。触ることができないお子さんがすごく増えている。全部とは言わないですが、公園でそれぞれ本当にいろいろな遊びが、昔やっていた普通にできていた遊びが、どこかに行けばできるという公園が増えれば本当にありがたいなと思っています。

あともう一つ。災害時の支援のマニュアルなどもどんどんできているのですが、要支援者対策ということでは、障害者団体連合会で活動をしていますので、何かが起きた時に今のままでは皆さん助からないって思っているんです。どうしたら助かるだろうかって、それぞれの個々で準備するものももちろん必要なのですが、彼らは健常者よりもそこは真剣に考えていて、備蓄とかもものすごくやっています。ただ、何かが起きた時に、1人ではどうしようもないので、そこも対策を決めるには彼らの声を組み込まないとやっぱり進まないと思っています。検

討会とかで、今はこういう状況でここまでしかできないけど、ではどうしていったらいいのかみたいな話し合いが、やっぱり時間を掛けてある程度進んでいくと、彼らも安心ができます。そういった取組みが今後進んでいくといいなと思っております。そういったことがもし加えられるようであれば、ぜひお願いします。

(宮本分科会長)

この「くらし・まち」に関して、細かいことになればいろいろと思いつかれることがあるかとは思いますが、全体としては、これでいいかどうかということについてお諮りしたいと思います。

一応、皆様方の総意で、この資料の1から3までを承認していただけるかどうかをお諮りしたいのですがいかがでしょうか。

(一同異議なし)

(宮本分科会長)

よろしいでしょうか。では、皆様に全体として合意していただいたということにしたいと思います。

3 次期計画で高めていくテーマ(案)に関する意見交換

(宮本分科会長)

では、次第の3番になります。次期計画で高めていくテーマ案に関する意見交換をしたいと思います。資料の4です。全部空白になっていますが、大体テーマごとに全体で八つの囲みとなっていますが、どこからでも結構ですが、ご意見をいただければと思います。まず、事務局からこれについて説明をお願いします。

(伊東基本計画担当課長)

資料4と2をご覧ください。まず資料2で、これまでの取組みに加えて、次期計画の中で高めていくテーマということで、活力ということで、やりたいことが実現していく。自己実現を後押ししていくという視点のお話です。その時にも意見をいただきましたが、総論はいいのだけれども、各論、具体化になった時にどういったものになるのかということころは、更に検討していく必要があるのではないかとすることはご意見の中でもいただいています。私たち行政の

中でも、各施策分野に落とし込んで、やってみたいことを後押しするという視点を、当然行政としても考えていくのですが、今ここにお示しをしたくらし分野・まち分野。合わせて八つの分野に分かれますが、この分野の中で自己実現の後押しですとか、やりたいことが実現するという姿が、どういった形で実現していくのかといったところの案を、皆様からご意見をいただければと思います。例えば生活環境で防犯を高めていく。これを区民の方がやってみたいとおっしゃった場合に、どういった施策でそれを後押ししていくべきなのかですとか。災害分野、経済分野でも同じなのですが、その分野に関心がある区民が自分たちで何かやってみるところで、では行政や周りの方々がどんな支えがあるとそれが進んでいくのかということころの視点を、今回ご議論をいただければと思っています。

(宮本分科会長)

ありがとうございます。今回は非常に具体的な提案のようなものになると思いますが、出していただければと思います。

(岡安委員)

環境のところですが、以前足立区でも区民の皆さんに環境フェアの時に、苗か何かを1万個配って、それで1年後に育ててもう一度持ってきましょう、みたいなことをやったことがあったと思います。要はCO2削減のために環境面で、区民の皆さんと一緒にこういうことをやりましょうという提案を区が出して、区民の皆さんもその内容がこれはなかなか面白い、私も参加してみたいとなった。子どもたちだけでもいいのですが、やはり一緒になってCO2削減を、区だけがいろいろなことをやろうとするのではなく、区民と一緒に取り組める。また、区民が気軽に、それなら私たちもできるね、というようなのを考えていただいて、区民の皆さん、あるいは子どもたちと一緒にできるような、そういうのを環境面で入れていただけたらいいかなと思っています。

(渡部委員)

今のお話に関連して、ずいぶん前に荒川土手で桜を植えて、区民が植えるという取組みがあ

ったと思います。区民が抽選で植えていく。自分の名前のプレートが付いて、植樹をしていくという施策があった。2〜3回やってなくなってしまったと思いますが、多分ものすごく応募が来たのではないのでしょうか。東京都では昔、公園ベンチってやっていましたが、ベンチより木を植えるという、それでCO2削減をしようと。荒川土手の桜の名所に自分の木があるというのは素晴らしいなと思ってやりたかったのですが、抽選で外れてできなかった。ああいったことを何らかの形でやっていくような施策があったら、すごくいいなと思いました。

(宮本分科会長)

5年以上前に自分が関わった報告書を見ていたら、足立区が主催する「あだち皆援隊講座」というのが出てきました。これは現在もやっているようですね。ネットで見たら、最近のも出ています。この考え方は非常にいいなと思います。退職した方、退職前の区民の地域への参加を推進するために、1年間の連続セミナーだということで、区民が参加している。毎年、教養編・実践編、そして実践編の専攻コースに分かれてやっている。これは考え方として非常に良い。現役の方たちがうまくソフトランディングで地域に入るという意味では、こういう取り組みは必要だなと思います。結構全国に同じような発想で行っている取り組みというのがあって。ちょっと調べてみたら、例えば世田谷で地域デビューの会というのがあって、仕事をしていた世代の方がいよいよ地域の中にデビューをしていく。そのデビューをするといっても、何らかの後押しがないと、なかなか上手くいかないというので、それをやっているということです。去年はメンバーが24名で、男性が6割、女性が4割ということで、地域の活動としては男性の割合が高いなという感じがしました。

それから、兵庫県の生きがい仕事サポートセンター。これは10年以上になると思います。やはり同じ考え方で、仕事の世界から地域にソフトランディングしていくための生きがいと仕事をサポートするセンターを作って、民間ベースで動かしているものです。公的な資金が

出ているのだと思います。ここではコミュニティビジネスの支援もあるし、NPO等での就業起業等もやっている。全国的にこういった動きがあって、みんな考え方、問題意識は同じところから来ていると思います。やはり足立区も「あだち皆援隊講座」だけではなく、こういう仕組みがいろいろあるといいと思います。小柳委員が提案されているのは、リタイアする方ではなく、現役の人たちがある技能なり職種で、この地域の中でコミュニティを作ろうということで、それも自主性に任せると同時に、何らかの公的な援助なりがあると、よりスムーズに行くという話になるかと思います。

(渡辺委員)

世田谷大学の事例は私も勉強をしに行きました。特にリタイアされた方々がそこに登録をして、例えば役所は役所でそれぞれの部署に、こんなことができる人材が必要だよということをその大学の中に投げます。そうすると、私はこういうことができるからと言って、その部署とマッチングをして、行政の仕事を手伝ってもらったり、地域に入ってやられているそうです。ただ、そこでどうしても邪魔をするのは、キャリアが高い人ほどプライドが高いという点。それが地域に入りきれないというところがあるので、ショックアブソーバーとしてそこに行政が関わるみたいなことがある。特にこれからは人材不足ですから、そうしたバンクみたいなものを区で作ってみるのも面白いかなと思います。

(岡安委員)

つい最近の新聞にも報道されていたのですが、世田谷区だったか大田区だったかがNPO、あるいはボランティア団体に1時間だけ区民が参加できる仕組みを作る。ただこれは区が主導ではなくて、むしろNPO、ボランティア団体の方から仕掛ける。予算的な措置は行政が応援するのでしょうかけれども、区民にどんどん周知していくというやり方で、前評判がいいということです。大前提として、どういうNPOがあったり、ボランティアのニーズがあるのかというのを、まず区民の皆さんが知らなければいけない。こういうことがやりたいとか、ああいうことがやりたいという区民がいっぱいいる

と思いますが、どこで何をやればいいのかかわからない。また、ボランティアで1週間入りきってやるということも違うなと思うとまた抜けづらい。ちょっとお試しでやるというのは、非常にいいアイディアだなと私は思いました。先ほど、渡辺委員が言われた、何かプラットフォームみたいなものを作る。前回の分科会でも言いましたが、以前は2階にありました。区役所に来て、「あ、こういうボランティアニーズがあるんだ」「こういったNPO団体ではこんなことをやっていて募集しているんだ」というのが分かるような、そういう仕掛け・仕組みを作っていたideきたいと思います。その中でいろいろな区民が可能性を広げていくこともできるのではないかと思いますのでよろしくお願いしたいと思います。

(小柳委員)

今の話にも関わりますが、区に来てデータベースを参照するのも物理的に限界があるのかなと思っています。基本的にはやはりインターネットになると思います。インターネットと言った時に、やはり高齢の方々がかなりインターネットの浸透率が低かったりということがある。なかなか全てをインターネットでということにならないのかなと思っています。今やっている基本計画の対象の時代というか、それはまた更に数年後から、何なら10年後近くまで掛かる期間の計画を立てようとしている中で、もう既に多分我々が検討している基本計画の中盤ぐらいには、高齢者でもあってもインターネットは当たり前の状態になっていると思います。それを見越して、インターネットベースの施策をやっていくことを、ここのビジョンの中に入れるべきだと思います。全てがインターネットがベースにあるという状態で組んでいくということが必要ではないかと思っているので、そこは盛り込んでいただきたいと思います。

(宮本分科会長)

足立区も大学の学生が高齢者にスマホのレッスンをするとか、そういったことは、今、結構やっているということを聞いています。とても大事なことだと思います。

(渡部委員)

今、渋谷区では同じようなことをやっていて、多分同じ仕組みではないでしょうか。渋谷ハチ公大学という形でプラットフォームを作り、渋谷生涯活躍ネットワークに大学に入った人が登録をして、地域で活躍したいと思っている方々が、それこそスマホ講座とか、パソコン講座という形で、自分たちのITスキルを上げていくという研修をやっています。今お話を聞いていて、その仕組みが今後足立区でもしっかりやっていくことをイメージすることができました。確かにみんなが使えるようになっている状態というのを目標にするのは、今、きっともう必須ではないかと思います。そういった意味で、いろいろなプラットフォームがいろいろなところでできている中で、足立区はどうやっていくのかというのは、今この中に取り入れるのはとても大事だなと思いました。

(宮本分科会長)

あとは前回、あやセンターぐるぐるのお話が出たと思うのですが。ネットで拝見すると、非常にいい施設だなという印象です。今、あのようなタイプの施設が各地で出てきていますよね。国立に1年前にオープンした子どもたちの活動の拠点なのですが、乳幼児から、大学生とか働いている人ぐらいまでが、基本的に自治の精神でいろいろな企画を出して、自分たちで動かしています。市から助成で、先日、講師を頼まれて、夜になると広いところに椅子を並べて、カフェでやっているみたいな雰囲気の中で、高齢シンポジウムをやりました。その企画は一橋大学の2年生ぐらいによるものです。だから連絡も全部スマホで、高齢者が付き合うには大変ですが、そういう感じで既に動いています。ああいう施設って非常に良くて、将来的には高齢者がそこでいろいろな活動ができるようにするという目標だったということです。ああいうものが増えていくと、生きた区民の交流の場というのがいろいろできてくる。そこで活動をやってもいいし、そこへ行って一日中ゆったり座って過ごしたっていい。お金は全然掛からない。そういった感じのものになっていくのではないかという感じがします。

ただ、「あやセンターぐるぐる」も、足立区

に1個では足りないかもしれません。それがもう少し増えていったらいいと思います。新しいものでなくて、廃校の跡を利用したっていいだろうし、そんな感じがします。

(伊東基本計画担当課長)

「あやセンターぐるぐる」の運営はSDGs 未来都市推進担当課がやっているのですが、私、そこの課長の兼務もしているので、お褒めいただいてありがとうございます。あの施設ですが、根底にあるのは、なかなか行政と関わるということが敷居が高いとおっしゃる区民が一定程度いらっしゃるということです。特に20代、30代で、区に転入してきたばかりの方々が、既存の団体ですとか行政と関わる場所にハードルがある。ただ、そういった方もやってみたいという自分たちの思いがあることも、アンケートで分かっていた部分があったので、行政色をなるべく出していない施設に来ていただき、やってみたいということをご相談いただいて、実現まで結び付けていこうというのがあそこの施設の一つのコンセプトになっています。

実際に10月の末にオープンして、先日まででやってみたい相談が90件以上寄せられています。年齢層は20代、30代、40代が中心なのですが、中には60代、70代の方からも相談が来ています。実際にそういった思いを区民が少なからず持っているということが私たち、肌感覚として分かってきましたので、ぜひそういった後押しをすることが、区民の活動量が増えてきて、活気が出てくるところにつながってくると思っています。

ただ一方で、そういったところにまだまだハードルが高い、やっていけないという方がいらっしゃる。まだまだ人の支援があって生活をする方がいらっしゃるの、区としてはその両面をやっていかなければいけないという姿勢でいるところです。

(山下俊樹委員)

高齢者・健康・医療の件ですが、今回ワクチンの接種がネット予約ができるようになって、意外とどんどん埋まってきているということです。この仕組みが例えば後期高齢者健診の予約とか、そういったものに使えないかということ

を考えています。高齢者も結構最近はスマホを使っている方も多い。うちのマイナンバーカード保険証の受付は、半分ぐらいが高齢者です。それなりに普及するのではないかなと考えています。それが上手くいけば、更に1歩進めて、プッシュ型のいろいろなサービスにつながる。それによって高齢者が健診をうっかりと忘れてしまうとかを防げる。イメージとしては、PTAで使っているホームアンドスクールみたいなアプリで案内が送られてくる。あるいは、警察の犯罪防止のものもあります。そういった検討を後押しをして上げるような仕組みができればいいと思います。

(宮本分科会長)

やはりITの技術がどれだけ広がるかによって、生活の利便性が全然変わってくるという話ですね。

(渡辺委員)

高齢者と生活環境・防犯というところで、足立区は詐欺被害が多い区だなという思いがあります。詐欺に強い足立区みたいなことは、数字が出れば強く実感できると思います。

(宮本分科会長)

私、先日銀行に行きましたら、カードだと15万円までしか下ろせないと言われて。高齢者はどんどん厳しくなって、1日に下ろせる金額がどんどん小さくなっています。詐欺に遭わないためにもものすごく不便な状態になっています。そのぐらいしないと大変な詐欺が起きているという話なのですが。詐欺に強い足立区のためには、相当不便も強いて、になるかもしれません。

では、現在までのところで出た意見を紹介していただけますか。

(地域計画連合 柳坪)

各分野に関してはいくつか出ておりまして。高齢者のところでは詐欺に強い足立区というのが出ました。あとは環境・ごみのところでは、区民がお子さんと気軽に取り組めるもの。今までは食事とかもやられていたということなので、そういったところからそれを継続的にできるというのではないかなということで、気軽にというのがポイントかなと思いました。あとは健

康では、ネットが前提となりつつあるので、そういったことを活用した健診の促進。健康づくりというものもネットをどう使っていくのかのポイントになると思います。この真ん中のものに関しては、どの分野と言うよりは、おそらく全ての施策に関連してくると思います。やはりプラットフォームを作るというのが、仕組みを構築することが大事だなという話で。これは対面にせよオンラインにせよ両方ということになると思います。ご意見としてはインターネットベース。この先5年、10年を考えた場合、そういった施策は前提として全ての施策において考えるべきではないかというご意見がありました。具体的にプラットフォームに関しては、既に「あだち皆援隊講座」などをやっていますので、他区の事例もありますが、良いもの、「あやセンターぐるぐる」も含めて、良いものは良いものとしてそのまま強くしていく。そういったものを作っていった方がいいのではないかと。一方でそういったところに積極的になかなか出てこれない人もいますので、そういった方へのサポートが必要というご意見がありました。

（宮本分科会長）

ありがとうございます。何か言い忘れていたこととか、あるいはこういうこともあるということがあれば出していただけますか。

一つ、左下の高齢者のところですが。地域のいろいろな活動を見ていると、男性が半分以上のような活動って本当に少なく、8～9割が女性です。つまり、決定的に男性のニーズに対応できる地域の企画がないのではないかという感じがします。もちろんどんなにニーズに合致した企画があっても、出てこないという問題はもう一つあります。これに関しては、男性の評判のいい活動ということで語られていることかというと、例えば農業、DIY活動。ある自治体でとても成功しているのが、古い名曲のレコードを全部集めて、それを定期的に集まった人たちがリクエストを出してそれを聞いて、その時に食事をしたり、お茶を飲んだりすることもできるような、そういう活動です。半分以上が男性ということでした。もっとアイデアをたく

さん出さないと、男性が地域社会で活動するというのは、福祉のボランティアに行く前の段階の話ですが、なかなか出てきていただけないのではないかという感じがします。だから、これは男性ご本人にどういうものがあれば出ていきたいかということで、聞いていかないといけないことなのだろうと思います。

体操が先ほど出ましたが、そのあたりのところも高齢者用の体操もほとんどが女性という印象があります。男性はゴルフへ行くとか、何か特殊なものについてであれば行きますけど、自治体主催、地域でやるようなものに関しては、とても限定されている。これはちょっと企画の立て方に問題があるかもしれないなという感じがしていますがいかがでしょうか。

（岡安委員）

本当におっしゃる通りだと思います。地域によっては多少男性も活発に出てきているところもあると思いますが、私の方の綾瀬エリアも住区センターに行けばほとんどが女性です。様々な地域包括支援センターがやっている趣味の会なども、ほとんど女性なんです。特にリタイアされて、今まで接点がなかった方が、いかに地域に出てくるのか。また、お一人になった方がどう地域に出てくるのかというのは、いろいろなメニューを出さないと難しいのかなと私も思います。先ほど先生が言われた、男性の意見を聞くことは大事だとは思いますが、多分100人に聞くと、100の意見が出てくると思います。千差万別なのかな。ただ、全般的に娯楽性が強い方が、やはり男性は出てきやすいのかなとも思います。囲碁・将棋であったり、スポーツ系であったり。そこに集まって、こういう話し合いをしませんかとか、映画だけ見ませんか、みたいなことだと、ちょっと限界があるのかなとも思います。

やはりいろいろなメニューを用意していただかないと、その人にマッチしたものって出てこないと思いますし。何かマッチしたものが出てくれば、毎週、住区センターに行ってみようかなとかですね。そういうことになると思うんですね。一度殻を破れば出やすくなるという。またそこで知り合いができれば、もっと楽

しくなっていくと思いますので。そこは一工夫を区でもお願いしたいと思います。

(加藤副分科会長)

社会の構造で、会社を見ても上場会社だと社長・会長は全部男性です。町会においても大体役員は男性です。男性は仕事人間ですから、会社とのつながりがあって、1回辞めると地域性がないということがあるのではないのでしょうか。一方、女性の方はPTAの時からつながっていますから、友達関係でしょうか。住区センターなどもほとんどが女性。そこが平均寿命にもつながっているのではないのでしょうか。大体6歳ぐらい違います。一つの仕事が終わったという、そこでリタイアしているから、なかなかこういう場に出るというのがどうなのでしょうね。いろいろな企画を作って、男性が出やすい企画ですか。「住区de団らん」とかいろいろな企画を作っているのですが、なかなか参加者は少ないです。

(宮本分科会長)

さっき山下委員が高齢者の健康維持のための体操・スポーツのことをおっしゃいましたが、実際に男性もそこに出てきて体操をやっておられますでしょうか。

(山下委員)

うちでも無料の体操教室とか、介護予防というか、介護保険も申請していない人たちを対象に、実際にやっているのですが。やっぱり女性が8割です。なかなか男性は集まってきて一緒に体操をしようとか、トレーニングをしようというのは難しいのかなと感じています。

(宮本分科会長)

奥様が引っ張って行かない限り、体操教室には行かないとか、それが大方の姿だと思います。

(伊東基本計画担当課長)

本日は様々なご意見をありがとうございました。男性の社会参加は非常に難しい課題です。企画の限界という話もありましたが、おっしゃる通りかと思います。先日、男性がほとんどを占めた企画がありました。若い男性ばかりだったのですが、何をやったかという、おでんを食べながら話そうという企画でした。一瞬、

「ん？」って思うと思うのですが。私も最初にこの企画を聞いた時に、人が来るのかと正直思ったのですが、蓋を開けると10人定員だったのですが、7人が男性でした。20代の本当に若い方。今まで行政が絶対に接点を持てない方々に響くものというのは、行政の中から生まれてくるというのは改めて難しいのかなと感じた部分でもあります。これは区民の企画でした。発想は行政にももちろん必要ですが、区民の発想に、今まで接することができなかった方々に接する機会のトリガーがあるのだと改めて感じました。なので、私たちとしては、1人でも多くの方々のやってみたいということを実現する中で、いろいろな方々の活動につながっていく機会が更に増えていくと思っています。そういった機会を用意していくことが、ひいては、今、参加をすることができない方々とか、それこそ単身の高齢者とか、そういった方々の社会参加の場にもなるのではないかなと思っているので、その視点は大事にしていきたいと思っています。

4 事務連絡

(伊東基本計画担当課長)

次回のご案内をさせていただきます。次回は第4回の分科会になります。日時は令和6年3月28日の午前10時からを予定しています。場所は本日と同じ、8階の特別会議室です。

本日はどうもありがとうございました。